



なかね 大



一人のために、未来のために！
子どもの命と笑顔を守ります！

令和3年第2回定例会特集

本会議・代表質問から

会派を代表し、区の諸課題に対し13項目について質問に立ちました。その要旨をご紹介します



新型コロナ対策

ワクチンの円滑な接種体制の構築を！

❗ 一般区民の接種が開始される際、予約から接種に至るまで、迅速かつ的確に進むよう、どのように接種体制を構築されるのか？

▲ インターネットの安定稼働に努めるとともに、コールセンターの予約回線強化を図ります。また、各地区総合支所の予約サポート窓口に加え、相談体制強化に努めてまいります。



変異株の対策を！

❗ 変異株への感染対策陽性者が出た場合の区の対応を、区民に周知する必要があると考えるが区長の見解は。

▲ 流行期における施設の児童や職員等の健康を守るため、接触者の範囲を拡大したPCR検査を実施するなど、対策を強化しております。こうした取組に加え、区ホームページやリーフレット等を活用し、陽性になった場合の対応など、区民の不安を解消する情報を積極的に周知してまいります。

❗ 区有施設で陽性者が発生した場合に、関係者に対し、より丁寧な情報提供をすべきと考えますが、区長のご見解は。

▲ 利用者に対して検査の実施状況や結果を周知するとともに、確認できた感染ルートなどをお知らせしてまいります。

防災・減災対策

地域防災力向上のため防災士に協力を！

❗ 区では今後育成した防災士が地域防災力向上に果たす役割をどのように捉え、地域での活躍に向けてどのように取り組まれるのか。

▲ 防災士は地域防災力向上に向けた重要な役割を担っていただきたいと考えており、今後、地域防災協議会参加についての意向調査を実施し、地域防災協議会の訓練等への参加を促すなど、防災士が地域防災力向上のために活動できる機会の創出を進めてまいります。



浸水対策に防災アドバイザーの活用を！

❗ 港区では、マンション浸水対策への不安の声が上がっています。地震災害対策のための「共同住宅防災アドバイザー派遣事業」における防災アドバイザーをマンション浸水対策に活用するのはいかがか。

▲ 防災アドバイザーは、浸水対策への相談にも対応することができます。本制度を活用することで、個々の共同住宅の実情に応じ、浸水対策や資器材の選定といった具体的なアドバイスを受け、共同住宅の防災力を更に向上させることが可能です。今後も、防災アドバイザー派遣事業がより活用されるよう周知してまいります。



子どもを守る対策

「きょうだい児」に対する認識を！

❗ 障がいのある子どもの兄弟姉妹である「きょうだい児」の存在を認識し、必要な支援体制を。

▲ 「きょうだい児」は、家庭や地域における親や友人などとの様々な関わりの中で、特有の体験や葛藤、悩みなどを抱えている場合もあるものと考えております。区は、児童発達支援センターや各地区総合支所において、心理士、保健師等の専門職による相談支援などに取り組んでおります。「きょうだい児」については、日中活動の場における相談しやすい環境づくりなど、個々の実情を踏まえた様々な支援に取り組んでまいります。



起立性調節障害の理解促進を！

❗ 現在、コロナ禍であることから、一層のケアが必要であると思われる起立性調節障害への対応を、どのように取り組むつもりか。

▲ 現在、学校では起立性調節障害の児童・生徒の欠席や遅刻の理由を把握した際に、当該の児童・生徒や保護者に、家庭での状況について聞き取りを行い、必要に応じて、専門医への通院等、医療的観点からのアプローチを保護者に助言しております。

また、教育委員会では、教職員が起立性調節障害の児童・生徒はもとより、その疑いのある児童・生徒への理解をより深め、適切に対応できるよう取り組んでまいります。



ワクチン接種について 要望・提案が実現！

- 公明党区議団は武井区長に対し4/22, 6/2と緊急要望を行い、また委員会や議会においても区のワクチン接種を円滑に進める体制を整えるため、質問・提言を重ねて参りました。
- 実現した項目は、
- ①支所に対面での予約サポート窓口を設置
 - ②64歳以下の接種時期を前倒し
 - ③保育士・教員への優先接種の実施
 - ④接種会場へのタクシー券往復全額支援
 - ⑤障がい者等への付き添いの支援
 - ⑥巡回接種に在宅訪問診療を加える(同居人も含む)などです。

高齢者デジタル活用支援員の設置が実現！

令和2年第4回定例会一般質問で、高齢者などデジタル機器に不慣れな人に対する支援の重要性を訴え、サポート体制の設置を求めてまいりました。その結果、本年6月より、各総合支所管内6カ所にデジタル活用支援員による相談窓口の設置が実現しました。



精神障がい者の就労支援が拡充！

これまで港区議会公明党は、精神障がい者の就労について、15分程度の労働でも賃金が得られる「超短時間就労」や、症状の不安定さなど障がい特性に応じたきめ細かな支援策を提案して参りました。その結果、令和3年度より、研究機関との連携による「超短時間就労」の取組がスタートし、令和3年6月には、ショートステイや、生活体験から就労まで一貫してサポートする区立精神障害者支援センター「あいはーと・みなど」が開設しました。



特別融資あっせんの申請期限が延長決定！

コロナ禍にあって、区内中小企業事業者の厳しい経営状況を支える港区特別融資あっせんの申請期間が令和4年3月末まで延長。さらに措置期間を延長するための資金借り換えに係る信用保証料を区が全額負担することが決定。これは区議会公明党が、長引くコロナ禍において、融資継続と返済措置への柔軟な対応こそ区内事業者を守る大切な防御策であることを訴えていたものです。事業再建の道筋が立てられるまで引き続き事業者を守る施策を訴え続けて参ります。



生理用品の配布が実現！

わが会派は令和3年度予算特別委員会にて、発展途上国のみならず先進国でも課題となっている「生理の貧困」への支援策について、防災備蓄品を活用するなど早急な対応を訴えかけて参りました。その結果、港区では、3/29～6/30の期間に子ども中高生プラザ等区有施設10カ所で生理用品が配布され、さらに区立小中学校各1校で、女子トイレにおける、生理用品の無償配布が実現しました。



地域版

お知らせ

私道を緊急工事！

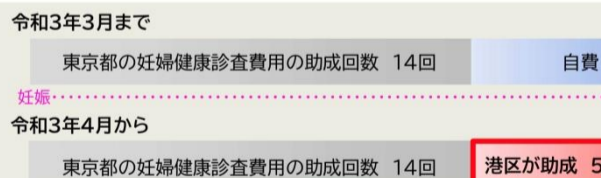


本年5月に、生活道路として使用されている私道整備の依頼を受けました。当地では古くに設置された雨水升の周りが経年劣化のため崩れ、陥没し交通に支障をきたしていました。区へ掛け合ったところ、私道整備事業を活用し、緊急工事を行っていただき舗装が完了しました！

多胎妊婦に対する新たな拡充

多胎妊婦の経済的な負担軽減と母子の安全確保のため、「多胎妊婦に対する妊婦健康診査費用の助成拡充」を開始

検診機会を拡充し安心して子どもを出産することができるよう支援します！



助成が受けられる回数が、合計19回になります！



港区では、毎年30～40人の多胎妊婦が出産をされています。多胎妊婦の健診回数は、単胎よりも平均5回多くなっていたため、14回の助成限度を越える費用は自費負担となっていました。私もご相談いただき、担当課に改善を求めて参りましたが、このたび19回まで助成費用が拡充されることになりました。東京23区では3番目の実施区となります。